

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 17 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381024

研究課題名(和文) 新教育運動における職業観・勤労観 今日の移行問題の視点から

研究課題名(英文) The Attitude toward Work and Occupation in New Education as a Prefiguration of the Current School-To-Work Transition Problem

研究代表者

伊藤 敏子 (Ito, Toshiko)

三重大学・教育学部・教授

研究者番号：20269129

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：「職業観育成」および「勤労観育成」にみられる主観的側面の強調が、文化的要因を超えたものに依存していることが確認された。また、子どもへのまなざしと社会へのまなざしという新教育運動に特徴的なふたつのまなざしが、その受容の過程においてどのように乖離・変貌していくかというメカニズムを解明することが、現代における移行問題の検討において大きな意味をもつということが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The research project examines the emphasis that recent Japanese education policy has placed on subjectivity as a means toward improving the attitude to work and occupation, putting it in the historical context of comparable trends in 20th century Western pedagogy. New Education, whose central tenet lay in benefiting society through a child-centered and interest-centered approach to instruction, was not adopted wholesale. The research project argues that a fuller appreciation of the adoption process can shed new light on today's school-to-work transition problem.

研究分野：教育思想

キーワード：移行問題 新教育 職業観 勤労観

## 1. 研究開始当初の背景

(1)研究者は1990年代半ば以降、新教育運動について「感性教育」と「身体教育」に焦点化された思想史研究を進めてきたが、2000年代半ば以降はこれに並行して学校から職場への「移行」に関わる言説の研究も行ってきた。二つの研究テーマを並行して追求するなかで、新教育運動の遺産とみなされている教育実践たとえば、「体験を介した職業観育成」や「教科横断的学習における勤労観育成」が、今日の移行問題を解消ないし軽減するという方向から再考するという可能性がみえてきた。

(2)新教育運動をテーマとする研究は、その理論上および実践上の意義について今日にいたるまで多くの成果を生み出してきた。しかし、「職業観育成」や「勤労観育成」に焦点を当てた検証はなされてこなかった。新教育運動が意図した労作による身体への影響(物理的効果)と精神への影響(主観的効果)を総合的に検討する必要性を感じた。

(3)「職業観育成」や「勤労観育成」は、現代の教育問題の文脈のなかに定位置を獲得した「移行」の鍵概念でもある。日本における「移行」への対応としては、職能開発といった客観的側面への対応ではなく、「職業観育成」や「勤労観育成」といった主観的側面への対応が前景化されていることが指摘されてきた。こういった研究動向のなかで、「移行」への対応について主観的側面を重視することを日本の独自性へと帰するのではなく、ドイツ等とも共有される傾向として捉えることにより、「移行」への対応の可能性について新たな視点を切り拓くことができるのではないかと考えた。

## 2. 研究の目的

(1)新教育運動における「職業観育成」および「勤労観育成」の現実を、新教育運動の主流のひとつをなす田園教育舎運動の学校(ドイツおよび日本)における教育構想および教育実践を分析することによって明らかにする。分析にあたっては、労作教育および教科横断的学習を核とした教育構想が「職業観育成」および「勤労観育成」にどのように作用することを意図するものであったかを分析することにとどまらず、その意図が教育実践にどのように反映されたか、さらにはその教育実践が結果としてどのような効力を発揮したかという連関を立体的に解明する。

(2)ドイツおよび日本の新教育運動における「職業観育成」および「勤労観育成」にみられる特徴、さらに今日のドイツにおける広義の「職業教育」と日本における「キャリア教育」にみられる特徴をそれぞれ比較することにより、そこにみられる主観主義的な側面の

強調の異同を綿密に検証し、今日の「移行」への対応のあり方を再検討する。

## 3. 研究の方法

(1)新教育運動における「職業観育成」および「勤労観育成」について、日本では玉川学園を中心として、ドイツではオーデンヴァルト学校を中心として、それぞれの学校に関して保管されている第一次史料にあたることで、その教育構想・教育実践・教育成果の三点についての連関を分析する。

(2)今日のドイツにおいて実施されている広義の「職業教育」において「職業観育成」および「勤労観育成」がどのように位置づけられているか、そして今日の日本において実施されている「キャリア教育」において「職業観育成」および「勤労観育成」がどのように位置づけられているか、実際に「職業教育」ないし「キャリア教育」に携わる人物と交流することによって、通時的(新教育運動からの連続性と非連続性)および共時的(ドイツと日本の異同)な分析を行い、学校から職場への「移行」への対応のあり方について考察を加えていく。

## 4. 研究成果

(1)新教育運動家が設立した学校は、経済的に恵まれた階層の子弟を教育対象としており、基本的には彼らの卒業後の収入源を想定した労作をカリキュラムに導入する必然性が希薄であったにもかかわらず、ドイツの新教育学校においても日本の新教育学校においても庭仕事と手工業を軸としてすなわち、主観的側面への対応を前景化させた教育構想を掲げ、これに基づく「職業観育成」および「勤労観育成」を強く意識した教育実践が展開されていたことが確認された。

(2)「職業観育成」および「勤労観育成」を目指した教育実践の成果についてドイツの新教育学校の事例と日本の新教育学校の事例を比較することで、成果の大きさは生徒の出身階層の構成および生徒にとっての教員像のいかんによって左右されることが明らかとなった。すなわち、この2つの要因によって、教員による教育の企図と生徒による教育の受容がどの程度の温度差を生み出すかが変化していることが判明した。

(3)現代の文脈において「職業観育成」および「勤労観育成」をみると、日本の「キャリア教育」に限定されることなく、他国における広義の「職業教育」においても似通った主観主義重視の傾向がみられることを浮き彫りにすることができた。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8件)

Toshiko Ito, Schulreform zur Erzeugung von Arbeitsfreude? Konzept und Realität der praktischen Betätigung in einem deutschen und einem japanischen Landerziehungsheim des frühen 20. Jahrhunderts, International Journal for the Historiography for Education, 査読有, Vol. 7, No. 1, 2017, pp. 42-59  
伊藤敏子, 「望しい職業観・勤労観」と「社会への開かれ」の連続と非連続 新教育運動が示唆するもの、三重大学教育学部研究紀要、査読無、Vol. 68、2017、pp. 187-196

Toshiko Ito, Marktorientierte Hochschulreform im Interesse der Jugend? Vom Sinn der tertiären Bildung in Japan, Bildung und Erziehung, 査読有, Vol. 69, No. 2, 2016, pp.191-208

伊藤敏子, 「職業観・勤労観の育成」へのまなざし 拠り所としての情報と経験、三重大学教育学部研究紀要、査読無、Vol. 67、2016、pp.176-183

Toshiko Ito, Eine Systematik der Bildungsräume? Zur nationalen Sensibilität in der japanischen Bildungsforschung, International Journal for the Historiography for Education, 査読有, Vol. 6, No. 1, 2016, pp. 117-121

伊藤敏子, 新渡戸稲造における修養論の位相 包摂と排除の視点から、三重大学教育学部研究紀要、査読無、Vol. 66、2015、pp. 325-341

Toshiko Ito, Der Bildungsbegriff und die Humanwissenschaften. Eine japanische Kulturgeschichte, Erwägen Wissen Ethik, 査読有, Vol. 25, No. 2, 2014, pp. 264-266

Toshiko Ito, Der Übertritt vom Lernen zur Erwerbstätigkeit. Eine Deleuzesche Betrachtung zur Einebnung der Schwelle, Vierteljahrsschrift für wissenschaftliche Pädagogik, 査読有, Vol. 90, No. 2, 2014, pp. 177-190

[学会発表](計 4件)

Toshiko Ito, Teacher education and Japan's current higher education reform, 21. Japanese-German Symposium, 2016年5月20日, オルデンプルク(ドイツ)

Toshiko Ito, Schulreform zur Vorbereitung auf die Arbeitswelt?

Konzepte und Erfahrung der praktischen Betätigung in einem deutschen und einem japanischen Landerziehungsheim des frühen zwanzigsten Jahrhunderts, Sektion Historische Bildungsforschung, 2015年9月19日, ウィーン(オーストリア)

Toshiko Ito, Säkulare Moralerziehung und die Tohoku / Fukushima Katastrophe. Eine historische Analyse japanischer Lehrmaterialien, Internationale wissenschaftliche Tagung. Bildung und Erziehung in Zeiten atomarer Katastrophen, 2014年11月27日, エッセン(ドイツ)

Toshiko Ito, Torn between Pacifism and Imperial Expansion, International Standing Conference for the History of Education, 2014年7月25日, ロンドン(イギリス)

[図書](計 4件)

Toshiko Ito 他, Klinkhardt 出版, Nach Fukushima? Zur erziehungs- und bildungstheoretischen Reflektion atomarer Katastrophen. Internationale Perspektiven, 2017, 229 (99-117) 担当章名: Säkulare Moralerziehung und die Tohoku/Fukushima-Katastrophe.

Japanische Lehrmaterialien im bildungshistorischen Kontext

Toshiko Ito 他, Springer 出版, Bildung und Differenz. Historische Analysen zu einem aktuellen Problem, 2015, 386 (341-360) 担当章名:

Nivellierung der sprachlichen Differenz als schulische Aufgabe

Toshiko Ito 他, Impuls 出版, Religion long forgotten, 2014, 228 (113-129) 担当章名: Nuclear Disaster and the Quest for Meaning in the Civil Society

Toshiko Ito 他, WBG 出版, Bildung an ihren Grenzen. Zwischen Theorie und Forschung, 2014, 288 (81-94, 275-278) 担当章名: Inazo Nitobe (1862-1933) und die Widersprüche der japanischen Modernisierung

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

伊藤 敏子 (ITO, Toshiko)

三重大学・教育学部・教授

研究者番号：20269129

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

( )